

戦国時代の蒲郡

観光まちづくり課 ● 66・1120

次の大河ドラマの主人公は徳川家康。ドラマをより楽しむために、今号では蒲郡にまつわる歴史のエピソードや戦国時代ゆかりのスポットを特集します。

徳川家康と上ノ郷城の戦い



岡崎で生まれた家康ですが、実は蒲郡にもゆかりがあるって知っていましたか。

永禄5年（1562年）、桶狭間の戦いをきっかけに三河地域の統一を図った家康が攻めたのが、上ノ郷城でした。家康は配下の忍者を忍び込ませて放火し、城内の混乱に乗じて攻め落としました。この城攻めは、日本で最初の忍者を用いた城攻めと伝わっています。

上ノ郷城は蒲郡一帯を治めていた鵜殿氏が本拠地としていましたが、落城後は家康の生母である於大の方の再婚相手の久松俊勝（長家）が入城し、家康が関東に移るとともに廃城になったと考えられています。

神ノ郷城？

上ノ郷城？



“上ノ郷城”という単語を見て、「あれ？おかしいな。」と思った方もいるのではないのでしょうか。今は“神ノ郷”と書きますが、昔は“上ノ郷”と書いたため、“上ノ郷城”となっています。

上ノ郷城の特徴



みなさんは「お城」と聞いて、どのようなものを思い浮かべますか。多くの人は、名古屋城のようなお城を思い浮かべるのではないのでしょうか。名古屋城には、大きくて高い天守閣や瓦屋根、真っ白な壁、頑丈な石垣などが見られます。ところがそついったお城ばかりではありません。上ノ郷城には、天守閣や石垣、瓦はなく、簡単な堀や土塁、木の柵などでできたお城だったと考えられています。しかし、周囲を流れる兼京川が堀の役割を果たし、また断崖に囲まれた天然の要害だったため、家康に攻められても簡単には落城しませんでした。


現在の上ノ郷城


現在、お城そのものは残っていませんが、空堀（水が引かれていない堀）や土塁（敵の侵入を防ぐため土を盛り作られた土手）、曲輪（城の区画。場所によっては丘や山を人工的に平坦にして作成したもの）が残っています。主郭（城の本丸があった場所）からは蒲郡の街並みと三河湾を一望できます。上ノ郷城に訪れて、歴史を感じてみませんか。



上ノ郷城へのアクセス

【所在地】神ノ郷町城山

 みかんの丘くるりんバス「赤日子神社」停留所から徒歩5分

 赤日子神社駐車場から徒歩5分

